

第3回 日進市地域包括ケア検討会議 議事録

- 1 日 時 平成28年3月11日（金） 午後1時30分～同3時30分
- 2 場 所 日進市役所 4階 第3会議室
- 3 出席者 五十里明（会長）、田貫浩之（副会長）、森道成、宇野公秀、高平和彦、鈴木絹子、吉橋一典、山田幹雄、加藤知恵美、加藤理子、梅原寛子、住田敦子、村井良則
- 4 欠席者 宮脇利明、鈴木久雄、大野香代子
- 5 事務局 山中和彦（健康福祉部長）、浅井金敏（健康福祉部参事）、加藤利秋（健康福祉部参事）、川本賀津三（介護福祉課長）、小塚多佳子（健康課長）、水野隆史（地域福祉課長）、柏木晶（地域福祉課課長補佐）、中根太地（地域福祉課地域支援係係長）、山川修永（地域福祉課地域支援係主事）
- 6 傍聴の可否 可
- 7 傍聴の有無 無
- 8 議題
 - （1）地域包括ケアシステム構築に向けた今年度の取組みについて
 - （2）地域包括ケアシステム構築に向けた今後の取組みについて

事務局 定刻になりましたので、ただ今から、平成27年度第3回日進市地域包括ケア検討会議を開催します。それでは会議の開催に先立ちまして、五十里会長より挨拶をお願いします。

会長 (あいさつ)

事務局 まず始めに、本日の配布資料について確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局 今回の出席委員は13名となっています。会の開催につきましては、日進市ケア会議設置要綱第4条第5項の規定に基づき、委員総数の過半数に達していますので、会の成立をあらかじめ確認させていただきます。

それでは、以後の進行につきましては、五十里会長にお願いをいたします。よろしくお願ひいたします。

会長 ただ今、事務局から仰せつかりましたので議長を務めさせていただきます。議事がスムーズに進行しますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

まず、会議の公開についてですが、本日の傍聴の申込みはありますか。

事務局 ありません。

会長 申し込みはないとのことですので、本日の傍聴はありません。

それでは議題に入ります。本日は市から議題1 地域包括ケアシステム構築に向けた今年度の取組みについて、議題2 地域包括ケアシステム構築に向けた今後の取組みについての2案件の提出がありましたのでそれを議題とします。

なお、事務局からの説明に関し、各事業毎に議題1、2一括して説明したいとの申し出がありましたので、そのような形で進めさせていただきたいと思ひます。

それでは、地域包括ケアシステム構築に向けた今年度の取組みおよび今後の取組みについて、市担当より説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

会長 ただいま、事務局より「①介護予防・生活支援総合事業」「②生活支援体制整備事業」について説明がありましたが、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

委員 訪問型通所型サービスBのところ、現状としては担い手がまだいないという

ことでよろしいでしょうか。

事務局 実際には、NPO法人やボランティアが地域たすけあい事業ということで取り組んでいる団体も日進市にはございます。ただ先ほどの話でA型B型というのは要支援の方を基本的には対象にしたサービスであり、現行のヘルパーが行っているサービスを同じような水準でまかなうための取組みということになってきますので、たすけあいをやっているサービスというものがそのまま当てはまらないということが出てまいります。特に生活援助に関しては、本人の自立を阻害する内容でサービスが組めないといったこともあったり、かなりご本人支援に関わるサービスといったような差がありますので、制約が生じてしまうということをお伝えしておきます。

委員 そういった視点でこれから養成をされていくということですね。まだ研修期間もありますので、実際には29年度以降ということよろしいでしょうか。

事務局 B型については29年度以降になります。A型については28年度の事業として取り組んでいきたいと考えております。A型は特にヘルパーの研修といったものが目安になると国のガイドラインにも出ておりますので、参考にしながら制度設計させていただいて、B型は少し緩める形で検討していきたいと思っております。

委員 訪問型と通所型、いずれもボランティアを参入させるということがポイントになってきますが、とても難しいことだと思います。今後じっくり検討していきたいと思っております。

委員 ワンコインというのはいくらを想定しているのでしょうか。

事務局 ワンコインというのはシルバー人材センターで取り組んでいる制度である「ワンコインサービス」というものです。30分で500円といった形でワンコインと呼んでいるのですが、こちらは当然に要支援者に限った話ではなく高齢者全般も対象にしたサービスになります。このあたりを少し充実するような形でB型に出来ないかなということを検討しています。

委員 福祉有償運送とはどういったサービスなののでしょうか。

事務局 福祉有償運送は対象が障害の手帳を取得している方、要支援・要介護の認定を受けた方になりまして、実施主体がNPO法人などの非営利団体しかできないということになっています。サービス内容としてはドア・ツー・ドアでタクシー同様とさせていただいて結構です。料金はタクシー料金の2分の1程度で利用でき

るということになります。例えば障害手帳を持っている方が利用されるということになると、実施している事業所に登録をしていただいて、おそらく会費なども納めていただいて、その事業所に使いたいときに使っていただく形になると思っています。ただ利用範囲がある程度限られておりまして、出発もしくは帰着が日進市でなければいけないということになりますので、豊田から名古屋に行きたいという場合には利用できません。

委員 移動支援についてももう少し聞きたいのですが、今後はこういった取組みを行っていく予定なのでしょうか。

事務局 もともとあるサービスなのですが、現在日進市内には1事業所しかないものを28年度からは2事業所、計3事業所に拡充されるということになります。いわゆるタクシーとっていただいて結構です。対象者や利用の範囲に少し制約があるということです。くるりんバスと組み合わせて使っていただきたいと思います。

委員 生活支援コーディネーターの養成研修を市で行うといった話がありましたが、養成者のおおまかな計画があれば教えてください。

事務局 具体的にはまだ決まっておりません。ただ先ほど生活支援コーディネーターの設置の時期を第1層が7月、第2層が10月ということで計画をさせていただいているという話をさせていただきました。A型の事業は市全域を対象にしたサービスを作っていくものと捉えておりますので、7月に設置予定の第1層のコーディネーター業務として、そちらと協議をしながら年に何回かの養成講座という形で計画をしていきたいと考えております。

委員 生活支援コーディネーターの設置時期が平成28年の7月ということですが、何か受託先についてお考えはありますか。

事務局 生活支援コーディネーターについてですが、市としては第1層市全域、第2層が日常生活支援をしている中部・東部・西部に設置をしようと考えています。第1層につきましては市全域のコーディネーターということで現時点では社会福祉協議会等が候補と考えています。

委員 生活支援コーディネーターは具体的にどういうことをするのでしょうか。

事務局 取組みとしては2つあります。取組みの①としまして総合事業に係るいわゆる要支援者の在宅生活を支える支援づくりということで生活援助の部分を作るための取組みをまずはしていただきたいというのが1点です。もう1点が取組みの

②ということで記載しています高齢者全般の在宅生活を支える支援づくりということで、こちらは色々な業務が実際に出てくるかと思えます。見守りの話ですとか生活援助の話、外出機会の確保など様々なサービスが出てまいります、実際には第2層のコーディネーターの方がメインに動いていく形になるかと思えます。具体的には生活支援介護予防サービスの現状把握ですとか、地域支援ニーズの把握、民生委員をはじめとした関係者間のネットワーク構築といったこともコーディネーターの業務として出てくるかと思えます。協議体といったものが実際には生活支援を協議する場として今後設置されていく形になるかと思えます。その協議体の運営ですとか中心的な役割として担っていただきたいと考えています。

会長 第一層の生活支援コーディネーターを社会福祉協議会という市担当からの説明もありましたが、これまでの意見で、何かご意見、ご質問はありませんか。なければ、事務局の方針で進めていくということでよろしいでしょうか。

委員 (異議なし)

会長 それでは続いて、市担当より説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

会長 ただいま、市担当より、「③認知症施策推進事業」について説明がありましたが、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。

委員 認知症予備軍に対しての対応をぜひ老人クラブにお話いただければと思います。

事務局 老人クラブの方で、皆さんに市がこういうことを考えていて、いつ頃やろうとしているのか、説明する機会をぜひ設けていただきたいと思えます。認知症のことについては何度も話し合ってきましたし、重点取組みとしてやってまいります。医師会や薬剤師会にご協力をいただいて出来るだけ地域に入って勉強会をさせていただくことも考えております。その際にぜひ老人クラブの皆さんにも参加をしていただきたいと思えます。

委員 今後の取組みについて専門的支援のしくみづくりの3事業は市としていつまでに取り組まなければならないといったことはありますか。

事務局 29年度中には出来るようにしていきたいと思えます。30年度にはスタート

したいと考えています。

委員 今年度取組みの中の支え合い仕組みづくりで認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロに向けた検討会議では、この2地区で住民の方を対象にした検討会議を開催されたということですか。

事務局 地区といたしましては南ヶ丘地区・五色園地区・東山地区の3地区にご協力いただきました。介護側の関係者として地域包括支援センターの職員、社会福祉協議会の職員にもご参加をいただきまして意見交換をさせていただきました。

委員 専門職の方を交えてという形ですね。この地区は市から指定をして実施されたということですか。

事務局 もともと徘徊模擬訓練を実施していた地区へ優先的に声掛けさせていただきました。

委員 家族支援の識別シール導入については効果はあるのでしょうか。

事務局 比較的好評だということは聞いています。なかなか端末機だけでは効果が薄く、実際には端末機を利用されている方も少ない状況です。個人名を載せる形はとりませんが、例えば番号等を記載されているものを見たときに連絡をいただけることでは効果があると考えています。

委員 このアイデアはすごいと思いますが、少し切ないような気がします。識別シールを貼られるときの気持ち、家族にとってはどういう風なのかと思いました。取組みの中で徘徊という文字がいっぱい出ていますが、以前ニュースで認知症の方が徘徊されて事故に遭いましたが目的があって徘徊をしていてそこに向かっていたという話がありました。尊厳という意味でももう少し慎重になるべきのかなという気持ちと、実際事故に遭ったときのことを考えると一番大事なのは情報に力を入れてこういうことが起こらないようにすることと、徘徊を繰り返す方が決まっているのであればいっそのこと徘徊同行者をつくり目的地まで同行する方がいいのかなと考えました。

事務局 支援ということにつきましてはまだ議論が分かれていまして高齢者の方に番号をつけるのは好ましくないのではないかという意見もあります。また私を助けてくださいといったようなものを貼るかどうかについても、まずは支援者側がきちんと対応する方法を優先的に考えることが大切だと思います。手法については慎重に当事者の方にご意見を伺い検討していきたいと思っています。地域において認

知症で徘徊される方は周りの方と顔見知りになっているので、みんなが把握をして支援していきたいと考えています。

会長 ここで5分ほど休憩を取りたいと思います。

(休憩)

会長 会議を再開したいと思います。
次に「在宅医療・介護連携推進事業」について市担当より説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

委員 I C T電子@連絡帳というのは具体的にはどのようなものなのでしょうか。

事務局 簡単にいうと掲示板みたいなものでインターネット上に共有書き込みできる場を設置しましてご自宅、医療機関、介護の現場それぞれお持ちのパソコンからその掲示板を使って情報を共有するシステムになっています。

会長 市より提案のありました在宅医療・介護連携に関する検討会機能を本会議の所掌事務とし、その検討については主に新たに設置する部会で行うこととしてよろしいでしょうか。こちらで行うことについてご意見ございましたらお願いします。

委員 (異議なし)

会長 では本会議における所掌事務とすることとさせていただきます。
それでは引き続き市担当より説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

委員 私は現在成年後見センターに勤務しています。今包括から課題に挙がっているように一人暮らしだとか高齢者の2人だけ世帯というところに福祉関係者の方と連携して支援させていただくのですが、昨日高齢者の方が一人で暮らしていらっしゃるって訪問させていただいたときにお家の中で転倒されたので救急搬送をしました。救急車で運ばれた後にご近所の方が見えて、「ずっと気になっていて一人で暮らしていらっしゃるけども、どう声を掛けていいのかわからなかった。何かして差し上げたいと思っても自分がどういう風に声を掛けたり、どんな関わりを持ったらいいか分からなくて何かあったら連絡ください。」というふうにおっしゃっていただきました。地域の中で隣にこの人がいるってことを知ってい

てもどういう風に声を掛けたらいいか分からないとか何か出来ることがあればお手伝いしたいと思っているご近所の方は結構いらっしゃっていて、これが見守りというところに、どうご近所の方の支援を取り入れていったらいいのか、一番身近にいる強力な支援者ではないのかなと思います。支えあいのしくみづくりである認知症高齢者見守り事業の充実、見守り協力機関の拡充にこういったものが含まれるのか分かりませんが、地域の中でサロンとか近隣の方が情報を持っている何か出来ることがあればと思っている力をどうやって上手く活用していったらいいのかということを経後の事業の中で少し考えていただけたらなと思います。しくみづくりの中に生活支援コーディネーターなど色々な計画を上手に取り入れていただきたいと思います。もう一つ、徘徊という言葉がどうなのかということをしつづつ聞くようになって、目的もなく歩いていくのではなくて何かその方なりの意識や目的があって歩いていくことが徘徊という言葉の表現に当てはまるのかどうか、もう少し温かい言葉でこれから日進独自の言葉が考えられたらいいなと思います。

委員 私の歯科医院で来られた方とカウンセリングをやっていて、少し認知が入っている方が結構いらっしゃいます。他地区で聞いたのですが歯科医院に通われている方を問診をして認知症の傾向がある方をスクリーニングして活用しようという動きがあるということを知りました。特に歯科医院というのは数もたくさんあるので助かりますし通われる期間も長いので見つけるという点では役に立てるのではないかと思います。ぜひ調べていただいて上手くいくのであればご協力させていただきますと思います。

委員 私どもの高齢者施設にもたくさんの人材がおりますし、色々な経験を積んだ職員もおります。結構外に出掛ける人も多いのでぜひご協力させていただきますと思います。

委員 やはり学習した人や経験した人が聞かないと大変だと思います。私たちも勉強していかないといけないということを感じました。60代、70代の人に出てきてもらって支援者として協力してもらいたと思います。40代、50代の仕事をしている人が実際に出てきてくれるかということと健康診断を受けてくださいといっても中々出てこないと思います。同居の人や家族で協力してくれない人をどうやって掘り出していったら身につけていくのか分かっているようで中々難しいし、知恵を出していきかないと感じ今後みなさんで協力して進めていきたいと思っています。

会長 その他、よろしいでしょうか。これで、本日の議題をすべて終了となります。事務局より、他に連絡事項があればお願いします。

事務局

次回の会議開催について、本年5月頃を予定しております。日時等が確定いたしましたらご連絡をさせていただきますので、ご予約いただきますようよろしくお願いいたします。

先ほどみなさまに賛成いただきました在宅医療・介護連携に関する部会でございますが4月に開催したいと思っております。関係者のみなさまには別途連絡させていただきますと思います。以上です。

(午後3時5分 閉会)